

2007年9月3日

米国三菱商事財団が中南米先住民族女性による気候変動セミナーを支援 **～2007年9月3日から5日までコロンビアのボゴタ市で開催～**

米国三菱商事財団は、南米コロンビアのボゴタ市で、2007年9月3日から5日まで開催される「第3回先住民族女性国際セミナー」を全面的に支援します。セミナーはコロンビア自然保護基金、コロンビア国立大学、国連の共催により、メキシコのザポテック族やチリのマプチェ族など中南米12カ国から約25名の先住民族女性を招いて行なわれ、気候変動の管理や緩和に関する政策や行動計画について活発な議論が行われることになっています。特に、国際会議のテーマとなることはほとんど無い「気候変動が先住民族の女性にどのような影響を与えるか」について、重点的に討議が行なわれることになっています。具体的には、京都議定書とCDM(クリーン開発メカニズム)についての討議や、気候変動が先住民族の人口や栄養状態にどのような影響を及ぼすか、などがテーマとなる予定です。セミナーの成果は、後日出版され、今後、気候変動に関するあらゆる議論の場で活用されることになっています。

<コロンビア自然保護基金(Fundacion Natura)について>

1983年に南米コロンビア・ボゴタ市で設立された基金です。コロンビア国内の自然・生物多様性の保護・持続的な活用や地域社会の持続的な発展に寄与することを運営目的としています。

<米国三菱商事財団(MICF)について>

MICFは、米国三菱商事が1992年に、三菱商事と共に設立した、ニューヨークを本拠地とする財団です。現在の基本財産は約600万米ドルで、これまでに南北アメリカにおいて300万米ドル強を環境や自然社会を支援する組織に提供してきました。